

インターバンクの声（2015 年 10 月 26 日）

「何だか面白くなってきた」というのが第一印象。そして G 2 0 や I M F ・ 世銀総会、国連会議などあらゆる世界会議を受けて、世界経済は「何とかしなければ」との共通認識の上に成り立っていることをあらためて思い知らせた格好。

E C B ドラギ総裁による 12 月の追加緩和の可能性に続く、中国・人民銀行の政策金利の引下げ。そして今週末の日銀政策決定会合で果たして追加緩和に動くのかどうか、すなわち日銀が国内事情よりも世界経済の置かれた状況を優先するのか、国際経済での日本の立場をどのように捉えているのか、といった点もポイントになりそう。

E C B が追加緩和に前向きな姿勢を見せたことで先週末の日本 10 年債利回りは 3.0%まで低下し 4 月 28 日以来の 2.0%台が視野に入ってきている中での中国人民銀行の追加緩和。

日本の追加緩和にプレッシャーがかかる中、物価見通しを下方修正するにとどまらず、日銀預入付利の引下げなど何らかの緩和姿勢を示すのか、グローバル経済の中での日本の立ち位置が問われることになるだけに、今週最大の注目材料となりそう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。